

今週（8月28日から9月1日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週の無担保コールO/N物は、前週からの流れを引き継ぎ、週前半は加重平均レートが日を追うごとに上昇する展開となったが、31日(木)には月末要因によりビッドサイドの一部に調達を控える動きが見られた事で、レートは低下した。1日(金)は月末要因が剥落したものの、オファーサイドに運用ニーズの高まりが見られた事でレート水準は大きく低下する展開となった。

ターム物は、ショートターム物で▲0.06～▲0.055%程度で出合いが散見された。

今週の日銀当座預金残高は、546兆円台からスタートした。国債の発行・償還や財政資金の揚げ・払いが見られたものの、週を通して大きな増減はなく、540兆円台後半での推移となった。

●レポ市場

今週のGC T/N物は、▲0.22～▲0.10%で推移する展開となった。30日(水)には、月末要因に加え輪番オペへの警戒感から、▲0.22%で出合いをつける場面が見られたものの、1日(金)には短国の発行要因も影響し、▲0.10%近辺までレートが上昇するボラタイルな展開となった。

SC取引の個別銘柄では、2Y438～451回、5Y150～160回、10Y355～371回、20Y175～185回、30Y65～79回、40Y10～16回などで引き合いが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、全体的にしっかりとした推移となった。

29日(火)に実施された短国買入オペは、前回と同額の1,000億円でオファーされ、按分利回較差+0.005%、平均利回較差+0.011%と、無難な結果となった。

1日(金)に実施された3M物入札は、無難な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでも堅調に推移した。

●CP市場

今週のCP市場は、月末・月初を跨ぐ週となり複数の業態で大型発行が見られ、償還総額2兆2,000億円程度に対して、発行総額1兆9,000億円程度と償還超のマーケットとなった。

市場発行残高は、30日(水)までは28兆円台前半での推移となったが、31日(木)には27兆円程度まで減少した事から、月末残高では前月末比で8,000億円程度の減少となった。

発行レートについては、日銀適格担保銘柄の3M以内の案件については、0%近辺での出合いが中心となった一方で、ロングターム物の案件では、引き続き日銀による政策変更の警戒感からかレート水準にばらつきがみられた。

28日(月)に行われたCP等買入オペは、事前予定通り4,000億円でオファーされた。結果は、按分レート▲0.005%、平均落札レート+0.001%と前回比(按分▲0.002%、平均+0.006%)で按分レート、平均落札レートともに低下した。

●短期金融市場関連指標

	日経平均(円)	新発10年物 国債利回り(%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
8/28(月)	32,169.99	0.660	146.49	△0.060	△0.163	5,467,800
8/29(火)	32,226.97	0.640	146.48	△0.055	△0.161	5,466,800
8/30(水)	32,333.46	0.650	146.01	△0.052	△0.204	5,468,700
8/31(木)	32,619.34	0.645	146.07	△0.056	△0.164	5,484,900
9/1(金)	32,710.62	0.625	145.64	△0.060	△0.152	5,440,600

来週（9月4日から9月8日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
9/4 (月)	8月のマネタリーベース(日銀 8:50) 財政資金対民間収支前月実績/当月見込み(財務省 15:00)				New York祝日 (Labor Day)
9/5 (火)	9月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50) 7月の全世帯家計調査(総務省 8:30)	10Y 27,000億円 9/6発行			7月の米製造業新規受注・出荷・在庫
9/6 (水)	山口県金融経済懇談会において高田日銀審議委員講演				8月のISM非製造業景況指数 7月の米貿易収支 米ページブック
9/7 (木)	高知県金融経済懇談会において中川日銀審議委員講演 8月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 7月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)	TB6M 40,000億円 9/11発行	30Y 9,000億円 9/8発行	エネルギー 対策借入 6,200億円 9/20借入	4-6月期のユーロ圏GDP確報値
9/8 (金)	4-6月期のGDP 2次速報(内閣府 8:50) 7月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30) 8月の景気ウォッチャー調査(内閣府 14:00) 7月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 7月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 8:30)	TB3M 56,000億円 9/11発行			7月の米卸売売上高 7月の米消費者信用残高

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
9/4 (月)	1,000	▲ 23,200	▲ 22,200	CP買入 社債買入 国債補完	▲ 500 ▲ 100 32,900		32,300	10,100	年金保険料揚げ 法人税・消費税揚げ 普通交付税払い TB3M発行▲58,000償還62,500 交付税借入▲12,000期日12,000
9/5 (火)	1,000	▲ 1,000	0				0	0	
9/6 (水)	500	▲ 27,000	▲ 26,500				0	▲ 26,500	10Y発行▲27,000
9/7 (木)	100	▲ 1,000	▲ 900						
9/8 (金)	600	▲ 15,000	▲ 14,400				0	▲ 14,400	労働保険料揚げ 30Y発行▲9,000 交付税借入▲11,450期日11,450
週間合計	3,200	▲ 67,200	▲ 64,000	—	32,300	0	32,300	▲ 30,800	

9/4は日銀予想、9/5以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、オファーサイドの運用ニーズが強い一方で、ビッドサイドでは積みの進捗が前倒しで進んでいる可能性もあることから、レートは引き続き低位での推移が予想される。債券レポ GC T/N物は、参加者のスタンスに大きな変化が見られなければ、▲0.15～▲0.09%程度での推移が予想される。短国市場は、7日(木)に6M物、8日(金)に3M物の入札実施が予定されている。また、5日(火)に実施が予想される短国買入オペは、1,000億円程度が見込まれる。CP市場は、四半期末を控えた発行動向が注目される。また、8日(金)にCP等買入オペが4,000億円でオファー予定となっており、こちらも結果が注目される。

主要なイベントは、国内では8日(金)に4-6月期のGDP2次速報、7月の国際収支、海外では、6日(水)に8月のISM非製造業景況指数などの発表が予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入